

## 災害時対応アンケート報告

【実施期間】 平成30年9月10日～9月21日

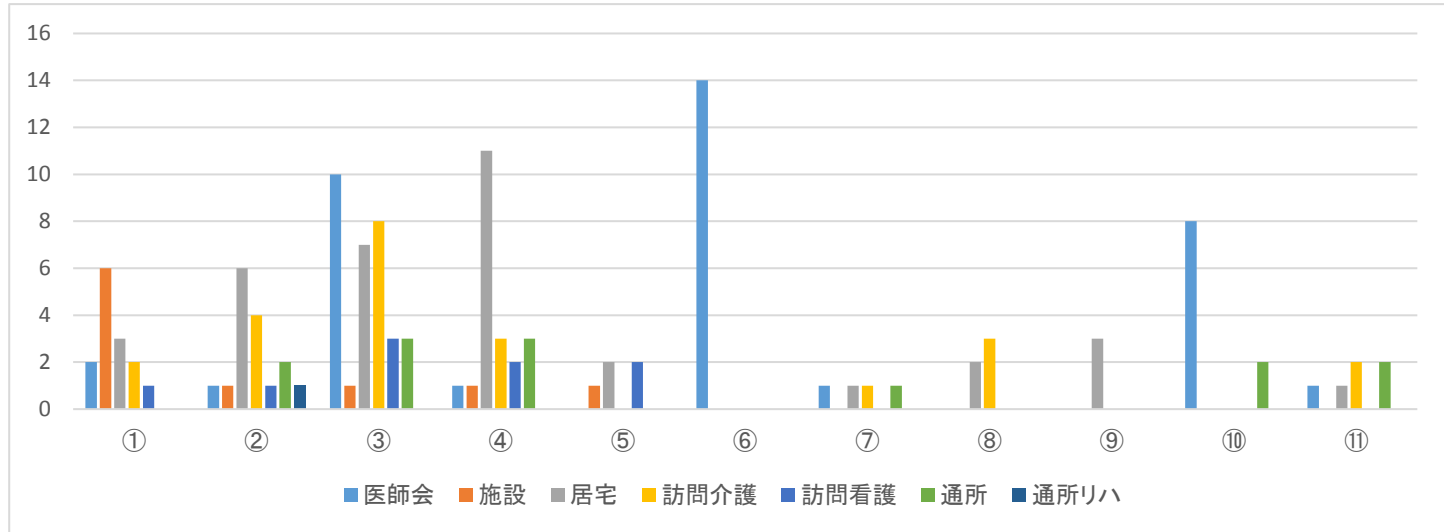
【方法】 FAX

【回収状況】

	回収率	配布	回収	
医師会	47%	58	27	
訪問看護	75%	4	3	
施設	38%	24	9	
居宅	45%	33	15	
訪問介護	34%	38	13	
通所	36%	25	9	
通所リハビリ	14%	7	1	※医師会、施設と重複している

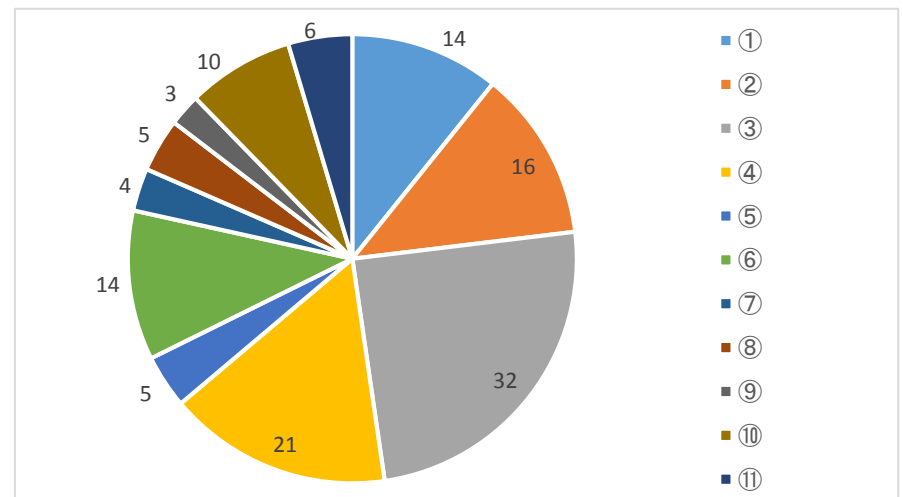
1. 災害時の業務上で困った事は何ですか？【複数回答】

- ①職員の確保
- ②利用者・職員の安全
- ③ライフライン・設備
- ④通信手段
- ⑤道路・交通
- ⑥休診、休業
- ⑦情報不足
- ⑧物資調達
- ⑨利用者の受け入れ先
- ⑩特になし
- ⑪その他



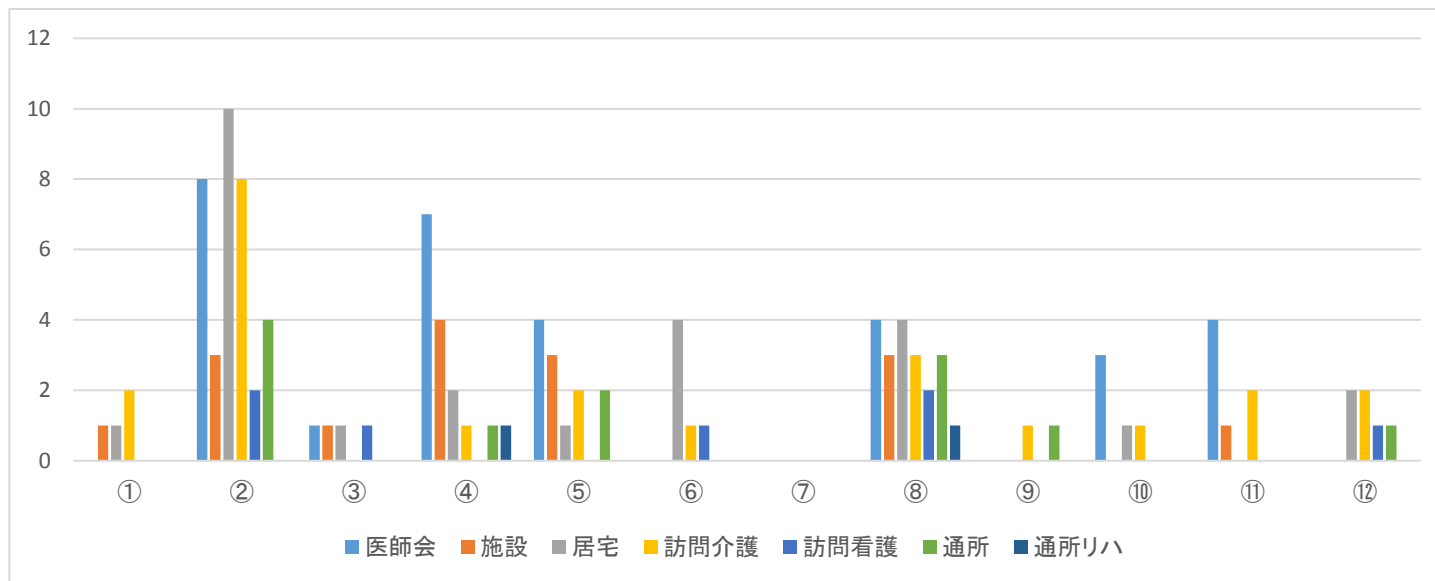
全体の集計では⑥ライフライン・設備が32件と最も多い。  
次に④通信手段となっている。  
⑦情報不足が4件と少ないのは、次の質問に  
情報について設問があったためと推測される。

全体集計



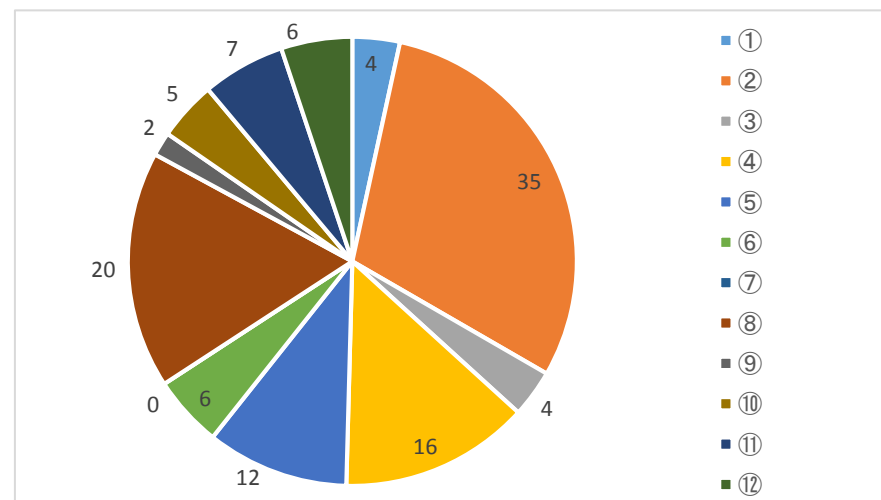
2. 災害時に必要だと思った情報は何ですか？【複数回答】

- ①利用者・職員の安全
- ②ライフライン・設備
- ③通信手段
- ④道路・交通情報
- ⑤気象情報
- ⑥避難情報
- ⑦休診
- ⑧近隣や他施設の被害状況
- ⑨物資調達情報
- ⑩利用者の受け入れ先
- ⑪特になし
- ⑫その他



全体集計で最も多かったのは②ライフライン、設備である。いつ電気が復旧するのか、どのエリアが停電、断水しているのか知りたいとの意見が多く見られた。次が⑧近隣や他施設の被害状況である。他院に患者を依頼できるかショートステイは利用できるかなど、災害時に近隣の被害状況を必要としている回答が多かった

全体集計



# 災害時対応アンケート報告

## 3. 印象的なエピソードがあれば教えてください

- ・大正駅まで歩いた、移動に通常以上の時間を要した
- ・往診したが帰宅できなくなり、マンション内に避難した
- ・災害で初めて休診した
- ・看板が落ちた・飛ばされた、瓦が落ちた、外灯が消えた、窓ガラスが割れた、トタンが飛んできた
- ・同区内で被災状況が違う事に驚いた
- ・患者家でEVが止まり、トイレが流れなかったと聞いた
- ・ライフラインに支障があった職員が施設で入浴・宿泊した
- ・職員が通勤困難になりシフト変更を行った
- ・職員確保のため大正駅や自宅まで職員の送迎を行った
- ・職員がフロアに出て利用者を守るために対応してくれた
- ・職員がカーテンを閉めてまわった
- ・災害の規模を予測した行動が取れなかった
- ・大正包括の方が利用者宅に水を配っていた
- ・台風の中デイを開けてくれた(職員全員大正区在住のデイ)
- ・発電機を使いパソコンが使えた
- ・透析利用者を担架を使って送迎した。おんぶで送迎した。
- ・緊急ショート、緊急入院に対応してもらった
- ・電話での安否確認できず訪問した
- ・集合住宅への物資持参訪問(階段利用)
- ・施設全体の停電により、簡易ライト、ランタン、氷柱、ドライアイスを購入し、ピストン運搬を行った
- ・足の悪い利用者が1階まで水を汲みに行った事
- ・スーパー等で水が売り切れていた事
- ・スマートフォンの充電ができなかった事
- ・電動リフト(ポータブルトイレ兼用)がストップ。新聞紙と犬用シートで排便していた。
- ・利用者にはつねに缶詰と水の確保を話していた。利用者が準備していた。
- ・EVが止まっているなか配食弁当を届けてもらった
- ・ケーブル回線のテレビがつかなくて困っている利用者が多かった
- ・透析から帰宅途中、マンホールの蓋が飛んできて危なかった。病院は帰りを遅らせる等の対応をしてくれなかった。
- ・集合住宅が断水になり、上階の方が、水道栓をあけっぱなしで外出した。断水が解消され水があふれ出し水漏れした。
- ・日ごろ研修会で防災について学んでいた事を活用し、ヘルパーが対応してくれた。
- ・道路の安全確保が出来ない状態で利用者の送迎をするのが正しい事なのか判断に迷った
- ・地震など事前の準備が出来ない災害のときの対応を利用者からきかれる
- ・市営住宅が2日間断水・停電しており、水も食料もなくなりかけていたのに行政から支援が全くないのが残念だった
- ・地域の方が力を合わせて災害ゴミの片付けをしていた。団結力をみた
- ・関西電力に電話が繋がらない
- ・停電の高齢者宅を訪ねるとロウソクをともしていた。
- ・電動ベットがギヤッチアップできないため食事介助が困難であった
- ・在宅酸素利用の患者様宅が停電となり、携帯ボンベの残量が少なくなって急ぎの対応が必要となった
- ・電話が通じないので、認知症独居の方の安否確認に困った
- ・要冷蔵の医薬品が全て廃棄処分になった
- ・大阪市に臨時ヘルパーや小規模多機能施設の定数外の利用について問合せたところ最初は認めてもらえなかったが、やりとりするなかで例外利用の了解を得た
- ・集合住宅の高層階の方はデイサービスが利用できなかったため、自宅から身動きが取れず精神的に不安定な状態が続いた。できる限り不安を軽減できるようケアに努めた。
- ・デイ利用可能となった時のご利用者の表情・言葉は忘れられない
- ・停電の為、食事介助に2人で訪問し、利用者様を車椅子に移動して、1人が懐中電灯を持ち、もう1人が介助するという事をした
- ・網戸が左右に動き大きな音でびっくりされ、利用者様同士で励まし、声をかけあっておられた

## 災害時対応アンケート報告

- ・停電、断水のため呼吸器をつけた1歳児を大阪市立総合医療センターに入院受入れを要請した  
今後このような場合どうするか確認すると、病院からは地域で対策をと言われた。  
区からは役所に来て頂ければ電気の供給は可能と言われた。呼吸器取扱い業者にも  
何か対策を考えてもらわなければと思った
- ・利用者様から地域の被害状況を教えていただいた
- ・地域のリハビリステーション職間のつながりで情報収集が可能であった
- ・電車遅延のための職員が出勤困難で、利用対応人数枠を減らすしかなかった
- ・台風の翌日もエレベーターが停止したままで、マンションや高層団地の上層階の方には  
ご家族のご協力のもとご利用頂いた
- ・入所のスタッフに通勤困難者がいたため、通所のスタッフが業務を手伝いご利用者の迷惑に  
ならないように努力した
- ・職員が一体となって、エレベータ停止の際の階段リレーや他職種連携が普段よりも密にとれた